

# 「柏崎の水」

## 大清水 だいせんじ 大泉寺の清水

国道8号線の上越市(旧柿崎町)との境界近く。案内看板から南側の山道に入ると、徒歩20分ほどで大泉寺観音堂に到着する。仁王門から柿崎方面に30mほど下った場所に、真夏でも豊富に水が湧き出る清水がある。

大泉寺観音堂は、朱鳥元年(686年)持統天皇の勅願寺として、泰澄たいじよう禅師が創建したと伝えられている。山の頂上に建立場所を決定したものの、水源がないことに困った泰澄禅師が、水が出るよう祈願したところ、三ヶ所から水が湧き出るようになったとの伝説がある。『自ら一刀三礼刻まれた千手観音菩薩に三、七日の祈願をこめられ。「どうぞこの山に水をお与え下さい」と一心にお祈りされた。そして、マンガンの二十一日目の朝、不思議にもお堂の真下とその他三ヶ所から、こんこんと水がわき出た。(あかすい「柏崎市伝説集」)』3つの湧水は關加水、清浄水、功德水と名づけられた。そして、水が豊富に湧き出たため、地名が「大清水」、寺号が「大泉寺」になった・・・とされている。



名称の由来ともなった清水には次のような伝説もある。昭和8年の11月のこと、柿崎に住む19歳の娘が眼病にかかり、日に日に視力が失われていった。娘の両親は方々の名医を尋ね治療に奔走したが回復せず、ついに娘は失明してしまった。娘の母親は、大泉寺の観音様に最後の望みを託し祈願をはじめた。毎朝、堂の前に湧き出る功德水を汲み娘の目を洗った。そして来る日も来る日も祈り続けた。すると、満願の21日目の朝、お堂に朝日の光が差し込むとともに、不思議と娘の目も見えるようになっていた。(「おおしみず大泉寺観音」大泉寺編)

大泉寺と清水との深いかわりには、御詠歌にもあらわれている。

「水上を たづねのぼりて 大清水

つきぬめぐみの 流れとぞ思う」



### 参考文献

- 「おおしみず大泉寺観音」大泉寺 1983 (180 頁)
- 「柏崎市伝説集」柏崎市教育委員会 1972 (388 K 冊)
- 「角川日本地名大辞典」角川書店 1989 (290 冊)
- 「日本歴史地名大系 15 新潟県の地名」平凡社 1986 (290 頁)

- 「越後八十八ヶ所霊場めぐり」考古堂書店 1993 (180 頁)
- 「越後三十三観音札所巡礼の旅」新潟日報事業社 1998 (180 冊)
- 「越後三十三観音詳細地図」越後三十三観音連盟 1986 (180 冊)
- 「越後巡礼 三十三観音札所」越後巡礼研究会 (180 冊)